



音楽を聴くとき、あなたは何に心を震わせるだろうか。感情を精緻^{せいじ}に切り取った歌詞に共感したり、重厚な音のハーモニーに感動したりと、それは人によってさまざまであろう。しかし、ボーカルの歌唱力そのものに心を震わせる体験というのは、あまり経験^{ジガエクスペリエンティア}したことがないのではないだろうか。今回紹介するsupercellの3枚目のアルバム、『ZIGAEXPERIENTIA』はそんな体験をさせてくれるアルバムだ。

supercellはアルバムごとにボーカルを変える「ゲストボーカル」というスタイルをとっている。このアルバムでボーカルに起用されたのは、約2,000人のオーディションで選ばれた当時15歳のこ糸だという女性であった。作曲者のryoが「(彼女の声を聴いて、作る音楽を) こういう感じにできるなと思った部分がある」とも話すように、このアルバムの曲は彼女の声の持つ魅力が最大に生かされるように作られている。ひとたび聴けば、「歌が上手い」というのはこういうことなのか、としみじみと感じさせられることだろう。

例えば、このアルバムの3トラック目の曲「Mr. Downer」はサビの開始後約20秒、歌詞が存在しない。歌ってはいるのだが、言葉を歌ってはいないのだ。しかし、その部分のボーカルは、歌詞を持つもの以上に雄弁であり、エモーショナルである。言葉では伝えきれないものを含んでいるので、ぜひ実際に聴いて体感してほしい。

ZIGAEXPERIENTIA

注目してほしい点はこれだけではない。このアルバムの曲は一人の作曲家が作り上げたということが信じられないほど、バラエティ豊かなものに仕上がっている。前半部に、ハイテンポなエレキギターに力強い声を乗せた、ロック気質の曲があるかと思えば、後半部には、優しいピアノに伸びやかなビブラートを合わせた正統派のバラードもある。

全体が一つの作品として完成されたものでありながら、進むにつれ次第に曲の雰囲気が変化していくため、絶えず新鮮な気持ちで聴くことができるこのアルバム。全ての曲であらゆるサウンドやボーカルが調和しており、最初から最後まで、縦に、横に心が揺さぶられること間違いなし。音楽を愛するあなたにぜひ聴いてほしい。

ジガエクスペリエンティア 『ZIGAEXPERIENTIA』

製作 supercell
レーベル Sony Records
リリース 2013年11月27日



はみだし
すてーじ

ツユデムシムシ
⇒オワレバ虫

(工・2 Soso)
(去年の夏は下宿にコバエが大量発生しました；編)